

はじめに

『ABCの本』デジタル版

アルファベット文字を、子どもたちは早くから知っています。平仮名を拾い読みする頃になれば、NHKも読めるようになっているはずです。3年生でローマ字を学習する頃になれば、会社のロゴや商品名のアルファベットを読もうとするでしょうし、スポーツ・チームのデザイン化された名前も読めるでしょう。

そのような時期に入った子どもたちが、英語で自分の気持ちを伝え合う活動を楽しめるようになると、日本語と同じように英語も書いてみたい、と言い出しても不思議ではありません。ちょっと書いてみたい、そんな子ども心を掬い取って、気がついたら英語が書けるようになってしまうのが、この『ABCの本』です。

英語の音を聞き取ることに慣れてくると、その通りにつぶやき始めます。英語で質問されれば、分かった言葉を繋ぎ合わせて答えようとします。こうして習熟が進むと、聞き取れた音が文字化されているのを見つけられるようになります。

聞こえてくる英語を文字でも気づくようになると、「書きたい」という気持ちが芽生えます。そのような段階で、無理をせずに書くことにも興味を持たせて、いつの間にか、文字が持っている「音」を表すルールがあることに気づかせて行くことが出来ると、英語の習熟が大きく飛躍します。

『ABCの本』を開くと、アルファベット文字が並んでいます。スピーカー・マークをクリックすると、A,B,C...と一つずつしっかり読み上げてくれます。「いろはにほへと」や「アイウエオ」を言うときより、母音も子音も強く発音して発音しています。よく聞いて、リズムに乗って真似をしながら言ってみましょう。A,H,I,J,K,Oのような2重母音、U,Vのように日本語にはない音で始まる文字の名前などをしっかりと聞き取らせ、先生も発音して、英語らしさに気づかせてください。**The Alphabet** を続けて唱える練習をする時は、そのリズムを大切にすることも、他の英語表現を練習するときの基本となります。「ABCの歌」の練習は繰り返し行い、日本語には無いリズムを体で覚えさせるようにしましょう。

書く作業に入る前に、まずイラストの絵の単語をしっかり聞かせて、子どもと一緒に発音しましょう。知っている単語ばかりなので、子どもたちは誘わなくても一緒になって言おうとするでしょう。AからZまで、イラストを全部言ってみると、「 $26 \times 4 = 104$ 、すごいなあ、104も知っている単語がある」と子どもと一緒に喜びを分かち合いましょう。子どもたちから「まだ言える単語があるよ!」と声がかかるとおもしろい。右側のページに、2つ、3つ子どもがよく知っている単語のイラストがあります。これらの語彙を使って、ページ探しなどのゲームをして楽しんでください。

そこで、またAのページに戻ってイラストを確認し、その単語の上にかかれているものを、そ

のまま読んでみてください。抜けている音は抜けているまま、読んで聞かせます。「あら？おかしい、**-corn**って何？**b-n-n**って何？さっき先生が言っていたのと違うよ」と子どもたちは戸惑った表情をみせるでしょう。そのおかしさに気がついたときに、「じゃあ、抜けている字を書き入れましょう」と促します。子どもたちはホッとしたように鉛筆を動かして書き入れてくれるでしょう。「ちゃんと**acorn, banana**になりましたか」と問いかけると大きく頷いてくれるはずです。

書かせる前にも、書き入れているときも、そして書き終わったときも、一つ一つの単語を丁寧に発音して下さい。**banana**には3つの **a** が入るはずですが、最後の **a** を忘れてることがあります。「**acorn, cap, table, banan?**」と子どもに読んで聞かせると、慌てて間違いに気づき、自分で訂正します。

子音と母音のいろいろな組み合わせが殆ど文字化されており、抜けている文字を書き入れ、点線で示されている既習の文字をなぞると、知っている単語が完成します。

1回の授業で1文字とすると26文字あるので26回になる、これでは後半の作業はすっかりだれてしまうと思います。1回のレッスンで1~3文字を学習することを原則とし、大文字・小文字も丁寧に書かせます。数個書かせる間に、正しく書けているかを確認してから、下にある4つの単語にも書き入れさせましょう。ほぼ2ヶ月で書き込みが終わると、最後のクイズのページは一人で楽しく終わらせることが出来ると思います。

各見開きページの右側には、そのページの文字で始まる単語で、すでに知っているものを、絵で描き入れていきます。絵を描きながら自分なりの単語のイメージをつくらせたいのです。**B,P,S,T** で始まる単語が多く、**K, Q, U, X, Y, Z** では、なかなか見つからないことも、辞書を引く時にどの字が多いかの参考になるので、経験的に学習させて下さい。

『ABCの本』が終了する頃には、知っている単語の総数が1,000を超えていても不思議ではありません。慌てず、焦らず、根気よく作業を続けていきましょう。

2010年10月 久埜 百合

※『ABCの本』（生徒用紙版テキスト・税込定価 ¥390）は、

<http://www.borgnan-eigo.com> / TEL 0120-777-529 へお問い合わせください。